

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)
大学院学生研究
2017年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 文学 研究科 ドイツ文学 専攻		
研究代表者 (2018年3月現在のものを記入)	在籍研究科・専攻・学年		氏名
	文学研究科ドイツ文学専攻 博士課程後期課程3年		宮島 章子 印
指導教員	所属・職名		氏名
	立教大学文学部 教授		井出 万秀 印
自然・人文・社会の別	自然 ・ <input type="checkbox"/> 人文 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 社会	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 共同 名
研究課題	ボードマーによるミルトン『失樂園』ドイツ語翻訳にみる地域性		
研究組織 (研究代表者・共同研究者) ※2018年3月現在のものを記入	在籍研究科・専攻・学年		氏名
	文学研究科ドイツ文学専攻 博士課程後期課程3年		宮島 章子
研究期間	2017 年度		
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 200,000円 / (採択金額) 200,000円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

ヨハン・ヤーコプ・ボードマーは、ジョン・ミルトン『失樂園』(1667)の翻訳を1732年から1780年の間に6版出版し、その都度改訂している。同翻訳の各版を言語学的に比較分析することにより、その改訂の変遷と背景を解明することが本研究の目的である。具体的には次の3点に集約される: 1) 各改訂に伴う語彙の変遷を明らかにする, 2) ボードマーの翻訳における語彙の地域性を探る, 3) ボードマーの翻訳作品における言語理論の実践を検証する。ボードマーが翻訳に用いた語彙の地域性を検証するために、同時代にドイツの各地域で出版された他の翻訳作品も比較対象とする。また、ボードマー翻訳に見られる特徴的な語彙は、複数の辞典を用いて検証される。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 18世紀の言語思想 } {ヨハン・ヤーコプ・ボードマー} { 『失樂園』ドイツ語翻訳 }

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

スイス人文学者ヨハン・ヤーコブ・ボードマー (1698-1783) は、文学理論上の論文を多く発表し、文学史の中でも啓蒙主義的、合理的な立場で知られるドイツ人文学者ヨハン・クリストフ・ゴットシェート (1700-1766) と対抗する勢力として取り上げられる。ボードマーに関する研究の多くは、文学理論に関わるものであり、言語思想については、ドイツ語統一のディスクールにおけるボードマーの位置付けについての報告 [Ruoss 2015; Pfalzgraf 2002] などがある。また、ボードマーによる自身の理論の実践はないとされている [Reiffenstein 2003: 2220]。

ボードマーの手がけた作品のひとつに、ジョン・ミルトン『失樂園』(Paradise Lost, 1667) のドイツ語翻訳 „Johann Miltons Verlust des Paradieses“ (1732) がある。ボードマーは 1732 年から 1780 年の間に、自身の翻訳に度重なる改訂を加えて 6 版出版している。本研究では、この翻訳作品をボードマーの文学・言語理論実践の場と捉え、各版を比較しどのような改訂がなされたかを詳細に分析することにより、ボードマーの文学・言語思想がどのように反映されているか、つまりボードマーの理論の実践について考察する。

本研究の目的は、次の 3 点に集約される。1) 各版の差異を明らかにする、2) ボードマーの翻訳における語彙の地域性について検証する、3) ボードマーの翻訳作品における文学・言語理論の実践を検証する。

最初に、ボードマーの翻訳テキストにおける改訂の変遷について、ミルトンによる原典を基に比較分析を行った。版を追うごとにどのような改訂がなされているかを詳細に分析することにより、6 版に及ぶ改訂の傾向を調査した。次に、ボードマーの翻訳における語彙の地域性について検証した。ボードマーの翻訳作品上にスイス的な言語表現が見出されるか、同時代にドイツの各地域で出版された他の『失樂園』翻訳から、エルンスト・ゴットリープ・フォン・ベルグによる翻訳 (1682)、ユストゥス・フリードリヒ・ヴィルヘルム・ツァハリエによる翻訳 (1760/1763) そしてザムエル・ゴットリープ・ビュルデによる翻訳 (1793) の 3 作品をボードマーの作品と比較分析した。また、差異がみられた語彙において、アーデルングの辞典、グリムの辞典およびスイス方言辞典などを用いて、その地域性を検証した。翻訳作品におけるボードマーの言語理論の実践についての検証は今後の課題である。なお、ボードマーの言語思想のひとつに、書きことばとしてのスイス的な表現の評価がある。ボードマーの翻訳作品において地域性の痕跡を検証することは、ボードマーの言語思想が翻訳作品に反映されているかを実証する手段となる。さらに各版の序文分析を通して、ボードマーの翻訳に対する見解と実際の翻訳内容との整合性についても考察する。

1. 予備分析

予備分析として、ミルトンの原本第 1 章の冒頭から 105 行目 (文章が句切れる箇所) までにあたるテキストを、各版から抽出し、その修正箇所の数値化を行った。その際、次のような方法を用いた: 原則として隣り合う版を比較する。その際新しい版において改訂された箇所を修正箇所として数値化する。また、修正箇所はその単語数ではなく該当する箇所ひとまとまりをひとつとして数える。その結果、第 2 版 (1742) において 259 箇所の修正が行われ、最も大きな改訂がなされていたことを明らかにした。第 3 版から 5 版にかけてはそれぞれ約 50 箇所の修正のみであり、第 6 版における修正はほとんどない。第 6 版では、正書法修正にとどまっている。さらに、これらの修正箇所を、時制 (形態)、冠詞 (意味)、語順 (統語)、語彙の観点で分類し、どのような修正がなされているか、その傾向を調査した。その結果、語彙に関する修正が最も多いことを明らかにした。語順に関する修正がそれに続き、時制および冠詞における変更はほとんど見られないことを確認した。語彙に関する改訂の例としては、ミルトンの原本 57 行目の *dismay* という語が、ボードマーの初版では *Machtlosigkeit* と翻訳され、第 2, 3, 4 版では *Schwachheit* に、残りの版では *Unvermögen* と翻訳されている。

2. 同時代にドイツで出版された他の翻訳作品との比較分析

上述の予備分析から、語彙に着目して比較分析を行った。その際、第 2 版 (1742) における改訂が最も多く、続いて第 5 版 (1769) での改訂が多いことから、分析対象を 1732 年版、1742 年版および 1769 年版に限定した。また、同時代にドイツの各地域で出版されたベルグ翻訳、ツァハリエ翻訳そしてビュルデ翻訳を比較分析に用いた。分析にあたり、ミルトンの原本第 1 章の冒頭から 105 行目まで、第 2 章から第 12 章においてはそれぞれ約 40 行目までにあたるテキストを各版から抽出し、合計で 1000 の修正箇所を収集した。

研究成果の概要 つづき

なお、ミルトン原本における語彙は、各版において様々に翻訳されている。修正された語彙の総数は約 2100 となり、これらの語彙が詳細に検証される。

最初に、ボードマー版における翻訳語彙と、ドイツで出版された3つの翻訳作品における語彙を比較することで、その差異を明らかにした。その際、ボードマー版における語彙が、ドイツで出版された翻訳作品における語彙と異なる場合、その語彙は地域性を示す可能性があるという仮説のもとで分析を行った。その結果、ボードマーの翻訳 1732 年版では、約 75 パーセントの語彙がドイツで出版された翻訳作品における語彙と異なることがわかった。また、1742 年版では約 65 パーセント、1769 年版では約 50 パーセントと、その数は減少した。とはいえ、1769 年版におけるドイツ版との共通語彙数は相違する語彙数よりも少なく、約半数もの語彙が、ドイツで出版された翻訳作品における語彙と相違していることは注目すべき点である。

次に、ボードマーによる翻訳と、ドイツで出版された3つの翻訳作品それぞれとの比較分析を行った結果、ボードマーのどの版においても、ツァハリエ翻訳との共通語彙が多いことを明らかにした。その数は、ボードマーの 1769 年版で最も多く、384 語彙である。その背景として以下の2つの点が考えられる。1) ツァハリエがボードマーの翻訳 (1732 および 1742) に目を通し、参考にした可能性、2) ボードマーが 1769 年版を出版する前に、ツァハリエ翻訳 (1760, 1763) を手にしていた可能性。ツァハリエは、自身の翻訳作品の序文の中で、ボードマーの翻訳について言及しているため、一つ目の可能性は、十分に考えられる。二つ目の可能性を検証するためには、ボードマーに関する文献の更なる分析が必要である。

3. 地域性の検証

ボードマーが翻訳で用いた語彙のうち、ドイツで出版された他の翻訳作品と異なる語彙について、その地域性を、以下の時代に即した辞典および聖書の語彙集などを用いて検証した：アーデルング『高知ドイツ語方言の文法的・批判的辞典』(Grammatisch-kritisches Wörterbuch der hochdeutschen Mundart, 1774-1786)；グリム『ドイツ語辞典』(Deutsches Wörterbuch, 1854)；チューリヒ歴史・考古学会編『スイスドイツ語辞典』(Schweizerisches Idiotikon, 1881ff.)；チューリヒ聖書とルター聖書の比較分析結果 [Schenker 1977]；バーゼルで出版されたルター聖書の語彙集 [Schütt 1908]。現時点ですべての語彙についての検証が終わっていないため、定量的な結論には至っていないが、いくつかの語彙についてその地域性を確認した。その例として、ミルトンの原本にある *chiefly* という語は、ボードマー翻訳 1732 版で *bevorab* と翻訳されている。アーデルングの辞典において *bevorab* という見出し語は存在しないが、見出し語 *vorab* の中で *bevorab* についても解説されている。アーデルングによるとこの語彙は、ドイツ国内における標準ドイツ語においてはあまり見られず、いくつかの上部ドイツ語地域の官房文書において用いられている、とある。グリムの辞典においては、*bevorab* という見出し語は存在するが、そこには使用例のみが掲載されている。グリムの辞典においても同様に、見出し語 *vorab* の中で *bevorab* について記されている。そこでは、アーデルングの辞典における解説の引用に加え、古い語彙であり、地域的に用いられる語彙であることが記述されている。スイス方言辞典にこの語彙は、ボードマーが用いた意味で収録されている。すなわち、ボードマーが翻訳に用いた語彙 *bevorab* は地域性を有しているといえる。

まとめ

ボードマーが出版した6翻訳を比較した結果、1742 年版において最も多く修正がなされていることがわかった。またその改訂の大部分が語彙によるものであることを明らかにした。次に、ボードマーの翻訳 (1732, 1742 および 1769 年版) および同時代にドイツで出版された他の翻訳作品を比較したところ、ボードマーの翻訳 1732 年版において最も多く約 75 パーセントの語彙が、そして 1769 版においても半数の語彙が、ドイツの他の翻訳作品で用いられている語彙と異なることを明らかにした。さらに、これらの語彙を複数の辞典で検証した結果、いくつかの語彙において、その地域性を確認した。なお、ボードマーは自身の著作 „Der Mahler der Sitten“ (1746) において、スイス方言の語彙の豊かさを、古い語彙を有しているとして評価している。このボードマーの言語的見解は、自身の翻訳における語彙の選択に反映されているといえる。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

- 1) Ayako MIYAJIMA: Johann Jakob Bodmers Übersetzungen von Miltons *Paradise Lost*. Eine exemplarische Vergleichsanalyse. In: *WORT. Arbeiten des Forschungskurses Germanistik*, Bd. 38. Hrsg. vom Germanistischen Seminar der Rikkyo-Universität Tokyo, 2017, S. 1-15.
- 2) Ayako MIYAJIMA: Zur Methodik der Differenzierung von Sprachräumen. Deutsche Übersetzungen von Miltons *Paradise Lost*. In: *WORT. Arbeiten des Forschungskurses Germanistik*, Bd. 38. Hrsg. vom Germanistischen Seminar der Rikkyo-Universität Tokyo, 2018, S. 1-16.

④ その他

- 1) Ayako MIYAJIMA: Regionalität in Bodmers Übersetzungen von Miltons *Paradise Lost* – Zur Methodik der Differenzierung von Sprachräumen.
[10. STaPs Bern 2017年3月30日～4月2日ベルン大学, ベルン (スイス)]
- 2) Ayako MIYAJIMA: Bodmers Vorworte zu den Übersetzungen von Miltons „Paradise Lost“ als Zugang zu seinen translatoologischen Prinzipien. Germanistische Linguistik: Forschungskolloquium Frühlingssemester 2017.
[フリブール大学コロキウム 2017年5月12日, フリブール (スイス)]
- 3) Ayako MIYAJIMA: Regionalität in Bodmers Übersetzungen von Miltons *Paradise Lost* – Zur Methodik der Differenzierung von Sprachräumen. Blockveranstaltung zum Seminar „Seminar für AbschlusskandidatInnen“, Wintersemester 2017.
[ボン大学ブロックゼミナール 2018年1月20日, ボン (ドイツ)]